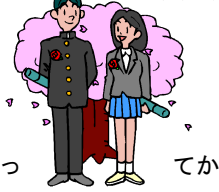


桜咲く・・・高校合格おめでとう！

中3生は全員志望校に合格、本当におめでとう。今年の3年生は非常に頑張り屋で、一度習った事は自分できちんと復習をするなど、学習習慣が出来ている生徒が多かったと思います。自分で学習する習慣は、高校に入ってから伸びるかどうかを左右する大きな要因になります。



高校の英語は量も増え急に難しくなるので、これからも夢の達成のためにしっかりと頑張ってもらいたいと思います。

教科書が新しくなって一年・・・どう変化しました？

- ・中学校で学習する単語数が3年間で300語程度増え1200語となり、「読む」教材が増えた
- ・「話す」、「聞く」活動が増え、実際の場面で役立つ表現や会話がいくつも扱われるようになった
- ・最も大きく変化したのは「書く」活動で、自分の意見を書き表す機会が多くなった

授業自体が週3時間から4時間に増えた(単純に考えると1年分増えた計算)のですが、教科書の中身も厚くなったので、実際には学習内容が定着する前にどんどん進めない間に合わず、生徒の負担がかなり大きくなっていると感じます。一回の授業で覚えなければならない単語の数が、旧教科書に比べて2倍ほどある時もあり、こつこつ単語を覚える習慣がないと

小学校で英語が導入されて・・・

小学校で英語に触れたことを前提にしているため、中学校一年生の英語の授業では、最初からたくさん単語が出てきます。小学校では文字を学んでいないので、アルファベットがうろ覚えだと、入学直後からいきなりつまづいてしまう可能性があります。フォニックスを通して文字と音の関係性がわかっていると、正しい発音にも結び付きます。少なくとも小学校6年生までには、簡単な単語は読めるようにしておくことが望ましいと感じます。

✿✿ 多読用絵本の活用を ✿✿

多読用の絵本をたくさん揃えたものの、なかなか授業中に絵本を読む機会を作ることが出来ていません。待合室に置いて、自由に読んでもらえるようにしたいと思っています。



お知らせ

春休み 3月29日(金)～4月4日(木)

この期間中、ご希望の方を対象に保護者面談をいたします。学習の状況をお知りになりたい方、相談のある方は、電話で予約をお願い致します。



大学入試にも対応する読解力を

先日の高校入試では長文、作文の量がますます増えていました。時間がたりなかったと感じた受験生も少なくなかったようです。

高校入試の英語の試験問題の総語数は1000語程度。教科書の半分の量を50分で読まなければならないと言われていています。センター試験など大学入試にいたっては4200語。普通に読んでいては全く時間が足りません。そこで英語を日本語に置き換えず、英語のまま頭から順に理解していく方法、スラッシュリーディング(フレーズリーディング)の練習を始めました。最初、高校に入学する前に、この方法を身に付けてもらいたい

と思い3年生を対象に始めたのですが、実験的に1・2年生にも取り入れてみました。今後どのように変化するのか楽しみです。

中国の英語教育事情とは



中国都市部では小学校1年生から英語の授業が始まり、小学生6年間で1200時間もの授業が、すべてオールイングリッシュで行われます。また、高校では英語の授業が週12時間、大学では100ページ超の教科書を4年間で16冊学ばなければならない、日本の大学生のおよそ10倍の学習量だと言われていています。

インターネット社会では膨大な量の英語を読みこなし、意思を伝えられる人が当たり前になっています。それはこの秋田でも例外ではありません。日本は英語教育において、中国や韓国に大きく遅れをとっているのは残念ながら明白です。生徒たちが大人になった時、アジア諸国の人たちと肩を並べて仕事をしていくためには、日本人一人一人がもっと危機感を抱いて、追いつく努力をする必要があると思います。

生徒募集中



小3・4年生クラス

中学校1年生クラス

小5・6年生クラス

高校1年生

加藤英語教室

42-2106